



かつて矢嶋家があった杉堂周辺の風景

勝子は里親に預けた達子を姉たちに頼み、兄の看病のために上京することに。長崎から船に乗り東京へ向かった勝子は、新しい門出を祝し、自分の名前を「勝子」から「楫子」へと改名した。

矢嶋楫子、39歳の旅立ちだつた。

小学校の教育者に
単身上京した楫子は兄のもとへ。左院議官であつた直方

は、神田区裏猿楽町の大屋敷で、書生、女中らを雇っていたが、放漫財政で1,000円（当時の教職員初任給は3円）もの借金を抱えていた。楫子はその放漫な生活を正し、わずか3年足らずで借金を片付けた。

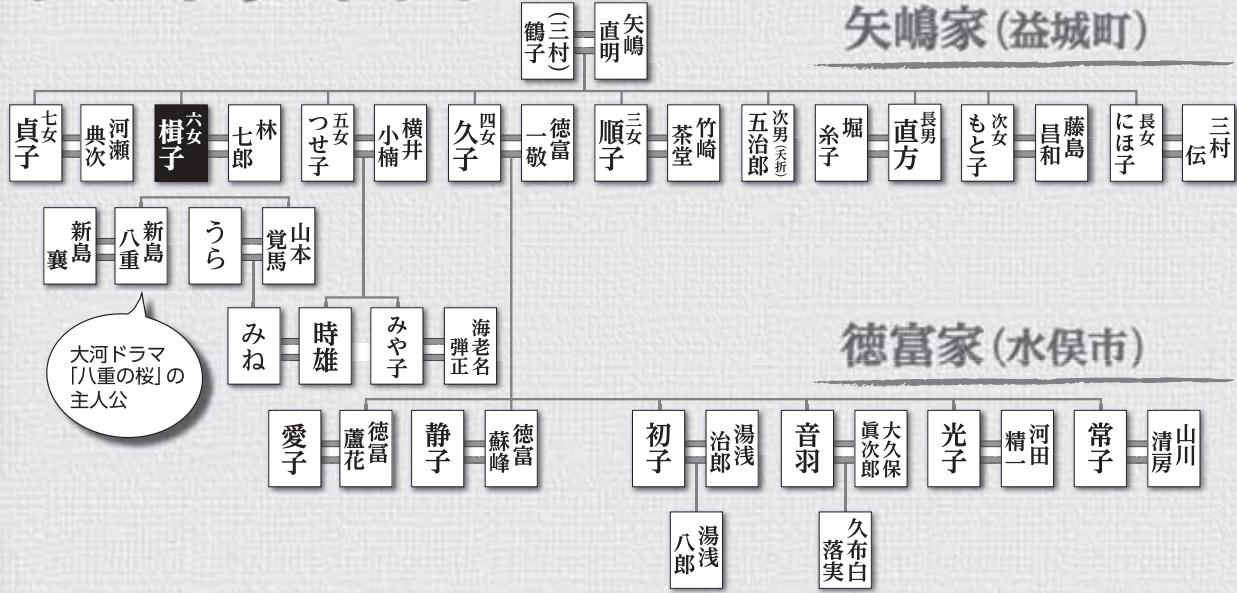
明治4年に文部省

が設置されると、小学校教員伝習所が開かれた。向学心が強かつた楫子は小学校教員を目指し伝習所に通い始める。楫子は1年で教員免許を取得。当時兄が政府の高官であつたことも手伝って、教員免許取得後すぐに芝の桜川小学校（現・港区立御成門小学校）に採用された。ここから30余年の楫子の活動が始まる。

明治11（1878）年、楫子はツル一夫人に運命的に出会う。これがキリスト教信仰への契機となつた。明治12（1879）年11月9日に築地新栄教会でタムソン博士から洗礼を受ける。後半生の新たな人生のスタートラインに

矢嶋家系図

矢嶋家（益城町）



徳富家（水俣市）



大河ドラマ「八重の桜」の主人公